

6月定例活動

トンボ池周辺整備 & ジャガイモ収穫



6月の定例活動は、名古屋市の環境講座「身近な自然体験会」で大人7人、子供4人、会員10人の計21人の参加がありました。

活動は午前中、草刈りなどのトンボ池周辺整備とともに、池の東側の畑で、ジャガイモ掘りと畑の草取りを行いました。

ジャガイモは今年の3月に植えたのですが、掘ってみると大きなジャガイモがたくさん顔を出し、みんな

大喜びでした。この後、掘り取った畑を耕し草取りをし、整地しました。



▲身近な自然観察会の参加者も手伝い、雑草だらけのトンボ池周りがあつという間にスッキリ



▲子ども達もジャガイモ掘りを体験

昼休みには、ジャガイモをアルミホイルに包んで焼き、全員で食べました。中はホクホクで、味は甘さとしっとり感があり大変おいしかったです。

午後は、トンボ池の中をタモ網等ですくい、水生生物の調査をしました。



▲昼休みにウッドデッキで採れたてのジャガイモを味わう参加者たち

確認された種は、トンボのヤゴ72匹、ギンヤンマのヤゴの抜け殻1個、ヒメゲンゴロウ4匹、モノアラガイ15匹、トノサマガエル(♂、♀)各1匹、ブラックバスの稚魚1匹でした。トンボのヤゴがたくさんいたのには驚きましたが、さらに驚いたのはブラックバスの稚魚がいたことです。たった1匹ですがどこから来たのでしょうか、こんなふうにブラックバスは増えていくのでしょうか、みんな首をひねるばかりでした。

最後に、整地した畑に全員で、サツマイモの苗を植え付けました。収穫は10月26日(土)の定例活動日の予定です。楽しみです、是非参加しましょう。(阿部)

シリーズ『森の住人たち』⑳

～シロスジカミキリ～

—日本最大級のカミキリムシ—



右の触覚がないシロスジカミキリ

ある夏の日のことである。森の散歩路を歩いていると、カミキリムシは転がっているのを見つけた。

体は横倒し状態で、命をすでに終えていた。それにしても大きい。一

シロスジカミキリ カミキリムシ科

体長 45～55mm 分布 本州～九州

食樹 クリ コナラ アベマキ

見して50mmはあることが知れた。見慣れたゴマダラカミキリは、30mm内外であることからして、はるかに大きなサイズである。ボリューム感たっぷりだ。黒い体には、刷毛で一刷毛、二刷毛したような白い斑紋がはいっている。長い触角の右側は、無くなっている。

調べると、シロスジカミキリ(白筋髪切)だった。日本に生息する約300種のカミキリムシのなかでも最大級のカミキリムシであるという。図鑑に載っている木肌にとまったシロスジカミキリムシをみて、疑問が湧いた。斑紋が白ではない。黄色っぽい色なのだ。解説文を読み進む。

「成虫の体の“黄筋”は、死んだ後には“白筋”となる。標本を基に命名されたらしい」とある。死が斑紋の色を変化させるようだ。

岐阜県出身の先輩は、カミキリムシの幼虫を「ゴトムシ」と呼んでいた。山間部では蛋白源として食されたという。また風邪をひいたときなどは、特効薬として貴重なものだったという。ものない先人たちの知恵の深さは、驚異である。

夏、森を散歩するときには、シロスジカミキリに出会いたい。もちろん、斑紋は“黄筋”であることを望みながら、ゆっくり歩こう。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)